

## マレーシア海外教育旅行現地調査報告

北海道札幌清田高等学校 教諭 新ヶ江 りえ

### 1. 視察目的

視察目的は以下の2点である。1つ目に、マレーシアの語学学校の内容・現状を視察することである。本校では隔年で海外語学研修を実施しているが、年々普通コースの生徒の参加が減少している。その要因として研修の価格が高いこと、語学学校外の活動が十分ではないことがあげられている。そこで、比較的安価で治安も良く、教育大国として力を入れているマレーシアでの語学研修の可能性を検討したい。語学学校と共に学校外でのアクティビティを視察し、言語と多様な人種・文化・宗教などの事柄を複合的に学ぶことができるかを検討したい。

2つ目に、現地の高校・大学における教育活動を視察することである。マレーシアは東南アジアの中心国であり、グローバルに活躍できる人材の育成に力を入れている。多様な他者を認めながらリーダーとしてマネージメントする能力、発信する能力をいかに育てているのかを視察したい。この事業への参加を通して、より多くの生徒が他国に興味を持ち、将来世界で活躍していく素地を形成できる機会につなげていきたい。

### 2. 教育旅行地としてのマレーシア

#### ①語学研修として

英語学校協会 (English Malaysia) の方々 (4校の語学学校のスタッフ) と懇談会に参加させていただいた。マレーシアは語学研修の候補地として英語研修とその価格、多文化理解の2点で魅力的であることがわかった。

まず1つめに英語研修についてである。マレーシアの語学学校では他国の語学学校と同様に様々なプログラムがある。内容面ではビジネス英語、アカデミック英語、資格 (TOEFL, TOEIC 等)、プレゼンテーション、コミュニケーション重視のコースなどがある。さらに、Education Program として環境や自然を学ぶプログラムなども用意されている。形態面では10名程度の少人数クラスや、1対1で学べるコースなど、個人の目的に応じたコースを選択できる。価格は\$470/month (一例) とリーズナブルである。また、授業の質について、各講師は英語を教育するための研修を受けており経験豊富で責任感があるので心配する必要はないとのことだった。また、研修中の宿泊施設はホテルやアパートメント、シェアアパートメント (他国の生徒と組み合わせるようにしている)、学生寮、ホームステイなどを斡旋している。ホームステイは一般的ではなく、シェアアパートメントの学生が多いようだ。学校を出れば日常的に英語が使用されており、語学学校で学んだことを学校外で24時間練習できる環境である。今回訪問させていただいた英語学校協会は20校以上の語

学学校で成り立つ組織である。ニーズに応じて他の語学学校に繋いでいただくこともできるとのことだった。そして、高校生が将来実際に英語を運用している場面を考えると様々な地域の発音やアクセントを持った人々とコミュニケーションを取っていくこととなる。グローバルな視点で活躍する人材を育てることを目標とするときに語学面・多文化理解の側面の両面で語学研修を行う第一歩としてとても魅力的な国である。



(英語学校協会のスタッフからの説明)



(情報・意見交換の様子)

次に、語学研修においてその地域の文化や風習、日本との関係性や違いを学ぶ事も大切な目的の一つである。今回の訪問では、カンボン・ビジット（近郊の村落でのホームステイプログラム）の視察を行った。カンボン・ビジットでは村の結婚式に参列させていただき、現地の結婚式の風習を体験することができた。現地の方々はとても親和的に暖かく迎えてくださった。ゴムの木の樹液採取を実際に見せてもらい、民族衣装や伝統的な遊びを体験した。また、日本国大使館とマレーシア政府観光局の訪問からは、マレーシア経済の発展や日本との関係性を学ぶことができた。主要産業が第一次産業から製造業やサービス業へと変化しており、観光業の発展や MICE（meeting, incentive, convention, exhibition）を誘致することにも力を入れている。また、マレーシアは多民族国家・イスラム国家としての優位性を生かして「イスラム金融」や「ハラール製品」のハブとなることを目標にしている。1959 年からは観光業にも力を入れ、今では観光業はマレーシア経済を支える第2位の分野であり観光客の数は年々増え続けている。また、クアラルンプール市内には日本によるインフラ整備を見ることができた。クアラルンプール新国際空港（大成建設、竹中工務店等）、首都のランドマークであるペトロナスツインタワーのタワー1（間組）、シンガポールとの連絡橋（清水建設）や首都圏の水不足を解消するための導水事業（東電設計等）にも日本企業が関わっている。日本の建設会社が海外でこれだけのインフラ整備に関わっていることに触れることは高校生にとって日本の魅力や誇りを改めて感じる機会になる。



(民族舞踊鑑賞)



(新王宮見学)



(独立記念碑見学)



(バティック染め見学)



(カンポンにて結婚式に参列)



(ペトロナスツインタワー)

## ②大学訪問から

2つめの視察目的は大学における教育活動を視察することであった。マレーシアで最も長い歴史があるマラヤ大学とマレーシア日本国際工科院を訪問させていただいた。マラヤ大学は12以上の学部を持つ総合大学であった。50以上の国々からの留学生を受け入れている。中心地からのアクセスも良く、自然に溢れたキャンパスであった。世界の大学ランキングでも146位であり(QS世界大学ランキング)、世界の様々な大学と共同研究を進めている。また、マレーシアに分校を設置している世界の有名大学も多い(Monach University、The university of Nottingham、University of Southampton、Newcastle Universityなど)。マレーシア日本国際工科院は日本型の工学系教育を行い、日本の労働倫理も学ぶ事ができる大学である。円借款により最先端の研究設備が整っていた。日本の大学の教授や准教授が派遣されて教育をしている。インターンシップが必修である。日本の大学生の語学研修や、SSH高校の訪問も受け入れている。工学系の大学でありながら女子学生が全体の50%程度を占めている点は日本の工学系大学との大きな違いである。工学部系で女子学生がこれほど少ないのは日本くらいかもしれないという話もあった。また、マレーシアの学生にとって日系企業の魅力は落ちてきているように感じるとのことだった。労働時間やノルマが厳しいわりに報酬が少ない。新入社員のトレーニングはしっかり行われるのでトレーニングを受けて(日本から見て)外資の企業に転職していく学生も少なくないとのことで、マレーシア日本国際工科院も学生獲得には苦戦中とのことだった。見学旅行や語学研修の中でマレーシア現地の大学を訪問することは高校生にとって進路を考える上で大きな刺激となるかもしれない。



(マラヤ大学訪問)



(マラヤ大学アートギャラリー)



(マレーシア日本工学院訪問)



(マレーシア日本工学院の女子学生)



(イラン人留学生が作成した研究装置)

### ③修学旅行（全員参加）としてのマレーシア

ここまで述べてきたように、マレーシアはマレー系・インド系・中国系の3民族、イスラム教・ヒンズー教・キリスト教・仏教の4宗教が共存しており、文化的宗教的なダイバーシティに富んでいる。世界の縮図といえる。高校生は世界状況を見据えながらまさにこれからの自分の生き方を考えて進路選択をしていく時期にある。その多感な時期の高校生が、東南アジアの中心国として多様な他者を認めながら生活し発展しているマレーシアという国を訪問し、直接世界と関わる経験をするは大変意義深い。

一学年 300 名程度の修学旅行であれば、安全性をはじめ宿泊先や観光時の移動などの心配が出てくる。宿泊先に関しては今回滞在したホテル（セリパシフィック、ルネッサンス）であれば国内旅行と同等かそれ以上に良い環境である。荷物を置くスペースがあり、ツアーデスクも作ることができ、必要に応じて広い部屋を借りて食事をし、ミーティングをすることも可能である。見学旅行の受け入れ実績もある。観光時の移動についても主要な施設は観光バスの駐車場所もあるし、クラス毎に見学順路を組み替えていけば移動の問題も特にない。そして最重要な点が安全性である。健康面では水や食事に気をつけることはもちろんだが、万一の場合は市内には高度な医療施設もある。そして、事件事故に関しては、基本的なことであるが現地の状況や情報を学び危険な地域には行かないこと、食事はホテル内で取るなどで対応できることもある。100%安全とは言えないがそれは国内旅行においても同じである。今回の現地視察ではマレーシアの人々は大変親日的で危険を感じることはなかった。そして、マレーシアは多民族が共存し続けてきた歴史があり、イスラム国家の中でも先進国であることを付け加えておきたい。

### 3. 最後に

今回のマレーシア海外教育旅行現地視察を企画運営して下さった北海道海外旅行促進事業実行委員会の三浦様を始め、札幌市立高等学校長会、マレーシア政府観光局の徳永様、HIS 石川様、坂梨様、現地ガイドのファイドさんにこのような貴重な機会を与えていただいた事に心より感謝を申し上げます。